今月の読み物

瘋癲老人日記
「僕の愛車遍歴」

狸寝入り

日経新聞に政財界や有識者が自分の半生を綴った「私の履歴書」という人気コーナーがありますが、この記事を読むたびに、「功成り名を遂げた人」は良く自分の歩んだ道を詳しく覚えているものだと感心させられます。それに引き換え、私の人生は平々凡々、想い出す事やドラマチックな事件なんか何にもありゃしません。しかし最近やたらビンテージカーがもてはやされて、BS放送では有名人の「私の自動車遍歴」などの人気番組もあるようです。私でも有名人が乗り継ぐ高級車とは全然違いますが、乗り継いだ車の数々は鮮明に覚えています。そこで車好きではないのですが、その当時乗っていた車を思い出すとその時の自分の馬鹿さ加減がよ〜く分かるので、ひとつわたしも「私の履歴書」を気取って、思い出すままに車遍歴を書いてみました。お読みいただけましたら幸いです。

まず最初の車は「ダットサンブルーバード」、私は免許取り立ての時そのダットサンで意気揚々と乗り出したら、忘れもしない住吉銀座商店街の真ん中で、シフトの入れ間違いでミッションを大破、親父に大目玉。続いて一年もしないうちに、信号の見間違えで人身事故、まだ未成年だったので家庭裁判所送り、当然ながら父親から免許証は没収、そのためでもありませんが、学生時代は加山雄三を気取って彼女と湘南の海岸をドライブという夢は空しく消え、昼間から学校の近くの雀荘で、どう見ても女性にはモテそうもない男四人で、点一の際限ない麻雀三昧、私の青春は楽しく？過ぎていきました。

材木屋になってやっと親から免許解禁、この時の車は新型「ブルーバード」、この車は当時では画期的なスタイルの三角窓がないスマートなセダンで、ベストセラーの車でした。しかしそのうち、このブルーバードでは物足りなくなり、その当時は日本列島改造論に沸いて、材木屋も絶好調、私も仕事を覚えて段々世間知らずの生意気な若造になって来まして、店の経営状態なんかお構い無しに「新車を買ってくれなきゃ働かないかんね」と親父に駄々をこねて「117クーペ」を買わせました。この車は今でも人気のある名車ですが、実はコレが曲者、寒い日などは上手くエンジンをかけないとプラグに燃料が回り過ぎてプラグが湿ってエンジンがかかりません。それに加えてハンドルが重かったこと重かったこと、それでも当時は得意満面、怖いもの知らずで、集金の時にスピード出し過ぎで、江戸川土手の30Km道路で鼠取りにて御用、40Kmオーバーで罰金３万円と免停60日、月給が５万円位の時の３万円は辛かった！

そしてその頃婚約しまして、高輪プリンスホテルへ117クーペを駆って婚約者と披露宴の打ち合わせなんかに行って、我が世の春を謳歌？と思ったらホテルの駐車場でエンスト、なんとも苦労の多い117クーペでした。そんな訳で次の車は電子制御で快適にエンジンのかかる車をと、懲りずにまた「いすゞ」の「ピアッツァ」を親父に買ってもらいましたが、この車、名車だか迷車だかわかりませんでしたね〜。デザ

ダットサン「ブルーバード」

「ブルーバード」510

いすゞ「117クーペ」

フェンダーミラーの「ピアッツァ」

インは117と同じイタリアのデザイナー「ジョルジエット・ジウジアーロ」の設計で格好はよかったんですが、残念ながら当時の車はドアミラーは違法でフェンダーミラー車だけなんですよね。写真でもお分かりでしょうが、フェンダーミラーのおかげでなんとも間の抜けたフォルムになってしまいました。加えてシャーシやエンジンは大衆車ジェミニで動力性能が悪く、さらに内装の内張はすぐに剥がれてきて散々、私の車選びの中でも大失敗の一台でした。しかし今でもこの二台の思い出は恥多き若かりし日々のオマージュなのかもしれません。（知ったかぶりしてオマージュなんてフランス語を使いましたが、オマージュってこんな使い方であってますかね？）

さあいよいよ、あのバブル時代がやって来ました。自動車もシーマ現象と呼ばれる大型高級車ブームが到来、そうなると私も家族５人で乗るには117クーペやピアッツァのような２ドア車では不便極まりないし、ブームに乗り遅れてはならじと高級車を買いたくて仕方がなかったんですが、いかんせん金が有りません。もう金ヅルの親父もいないし、どうにもなりません。しかし暫くしたら、私にも手が届きそうな車が発売されたんです。スタイルはBMWに似てカッコいいし、大きさはシーマ並、価格はシーマの半値以下、これなら何とかなるかも、でもそれでもお金が足りません。そこで一計を案じて最後の手段、高金利は承知で生命保険を担保に金を借りまして、その車を買ったんです。その名車？が三菱「ディアマンテ」、凄い名前でしょ、スペイン語でダイヤモンドの意味らしく、バブル時代にはピッタリのネーミング、爆発的に売れた車でした。そしてこの頃から大衆化してきたゴルフに夢中になり、仲間と共にこのディアマンテで遠く北茨城までゴルフに出かけてました。そのゴルフ会員権も金利９％という高利でノンバンクから借りたもの、それでもこんなゴルフ場でも暫くしたら相場が５倍くらいになって、仲間に自慢げにこれを吹聴してましたが、ご存知のようにそれが紙屑になるのに時間はかかりませんでした。バブル時代はこの２つの負の重荷で首が回らなかったのに加えて新社屋建設、これも全額借り入れ、正に三重苦、でも幸か不幸か株式投資までは金が回らなかったのが幸いして株式投資だけはやれませんでした。

話しをディアマンテに戻します。当時、マツダ車と三菱車には10年乗ると壊れるという伝説？がありまして、まず社員のマツダボンゴが東北道で、続いて妹のマツダファミリアが明治通りでエンスト、そしてついに私の三菱ディアマンテも山中湖で故障、すぐJAFを呼んで近くの修理工場へ牽引、「電気系統なので修理には時間がかかりますよ」との事、旅先でのこと、思案しましたが、仕方なしに山中湖村の修理工場でディアマンテを無料で引き取って貰いました。かくして私はバブルの恩恵を何ひとつ味わう事なく、借金の返済で終わってしまいました。

三菱「ディアマンテ」

これで改心して真っ当な道を歩めばよかったんですが、「喉元過ぎれば熱さを忘れ」とは良く言ったもので、まだまだ恥ずかしい車遍歴は続くのですが、長くなってしまいましたので、ここいらで終わりと致します。ここまでお付き合い頂いた方々には心から感謝致します。